

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	体育実技Ⅱ			単位数	1	時間数	33
科目区分	基礎分野	対象年次	2	学期	通年	授業形態	実習
担当講師	本多 尚基 ○実務経験を活かした講義						

授業の概要	運動やスポーツ活動は健康増進に寄与していることもあり、健康的な生活習慣を身につけるためにも、運動やスポーツ活動の楽しさを理解し、生涯スポーツ活動に親しむきっかけづくりの機会を提供する。また、体育を通して協調性やコミュニケーション能力、社会性の獲得など人間形成を踏まえた授業展開を行うため、学生に授業の一部を企画・進行する場面を設ける。				
学習到達目標	運動やスポーツ活動を楽しむ上では、各種目において最低限度の技能スキルが必要であることから、それらの獲得を目指す。また、運動やスポーツ活動には、多くの危険性が付帯されているため、安全管理の基礎的知識を理解し、実践する。				
授業内容	回	内 容	回	内 容	
	1・2	新体力テスト 新体力テストを実践し、現在の体力レベルを認識する	7	ネット型種目1 ・基礎的技術の習得 ・チームプレーの理解	
	3	ゴール型種目1 ・基礎的技術の習得 ・チームプレーの理解	8	ネット型種目1 ・戦略や戦術の解説・考案 ・ゲームの実践とその運用	
	4	ゴール型種目1 ・戦略や戦術の解説・考案 ・ゲームの実践とその運用	9	ネット型種目2 ・基礎的技術の習得 ・チームプレーの理解	
	5	ゴール型種目2 ・基礎的技術の習得 ・チームプレーの理解	10	ネット型種目2 ・戦略や戦術の解説・考案 ・ゲームの実践とその運用	
	6	ゴール型種目2 ・戦略や戦術の解説・考案 ・ゲームの実践とその運用	11	総括 保健体育をとおりて身体活動の役割や意義を理解したかを確認する	
授業方法	実技種目の選定については、1年次の実施状況及び新体力テストの結果などを踏まえて決定する。そのため、必ずしも上記の順番ではない。				
成績評価の方法	出席、授業態度(10%)、体力測定、実技実施状況、授業内発表とレポート(90%)				
履修上の留意点	授業に出席する際は運動に適した格好で臨み、室内履きを着用すること。安全面上、室内履きを忘れた場合は参加不可とする。なお、ピアスや貴金属など実技を行う上で危険性の高いものの着用は認めない				
教科書等	特になし				
参考図書等	特になし				
関連科目	体育学(1年)				
最近の国試出題傾向	特になし				

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	医学英語 a,b			単位数	2	時間数	36
科目区分	基礎分野	対象年次	2	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	北中 かおり ○英語教育の実務経験を活かした講義						

授業の概要	EMP-1-2 is a pre-intermediate to intermediate English course that is designed for the second-year physical therapy students. This course will help students learn physical therapy-related terminology and communicate effectively in a variety of medical settings.			
学習到達目標	The main goal is to increase students' ability to communicate effectively in English with patients as physical therapist. This course aims to enable students to: gain an understanding of basic vocabulary related to physical therapy, gain an understanding of basic expressions related to physical therapy, improve communication skills in rehabilitation			
授業内容	回	内 容	回	内 容
	1	Course overview Review (EMP-1-1) Hospital equipment	6~7	Physical therapy 1 Medical dialogs between physical therapist and patient Physical therapy-related verbs
	2	Review (EMP-1-1) Taking vital signs Measurements	8~9	Physical therapy 2 Medical dialogs between physical therapist and patient Physical therapy-related verbs
	3	Review (EMP-1-1) Activities of daily living Physical exercise 1	10	Physical therapy 3
	4	Physical exercise 2	11	Physical therapy 4
	5	Physical exercise 3	12	Review and practice
授業方法	lecture			
成績評価の方法	Final Exam 100 pts. Assignments 20pts. Total possible points = 120 pts. A= 90-120 pts. B= 80-89 pts. C= 70-79 pts. D= 60-69 pts. F= Below 60 pts.			
履修上の留意点	Students who successfully complete this course will be able to make English-speaking patients feel more comfortable and have a better understanding of their needs.			
教科書等	特になし			
参考図書等	All course materials will be provided in the lessons. There are no required materials to purchase before taking the class. Every student needs to bring a dictionary and all previous handouts to each class meeting.			
関連科目	英会話(1年)			
最近の国試出題傾向	特になし			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	生理学実習			単位数	1	時間数	33
科目区分	専門基礎分野	対象年次	2	学期	前期	授業形態	講義・実験
担当講師	山本 哲 ○生理学に関する実務、教授活動などの経験に基づいた講義						

授業の概要	人体を構成する器官系は、互いに調和を保って機能し、個体としての生命を維持している。 最初の時間は1年次の復習(講義)を行う。 実習では実験動物を用いて、または学生相互に被験者となって、各器官系の観察や実験を行う。			
学習到達目標	観察や実験の結果を基に、人体の各器官系の構造と機能について理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【講義】 末梢神経系、中枢神経系	6	【味覚】 味質による閾値、舌の部位による閾値
	2	【講義】 感覚、骨格筋	7	【皮膚感覚】 感覚点の分布密度、2点弁別閾
	3	【講義】 体液、循環、呼吸	8・9	【神経筋試料・活動電位】 神経筋試料の作製、電気的刺激 刺激強度と波形変化、伝導速度
	4	【講義】 消化・吸収、排泄	10	【骨格筋・心筋の収縮】 単収縮、強縮、負荷と収縮速度 期外収縮、不応期、スタニウスの結紮
	5	【講義】 代謝・体温、内分泌	11	【血圧・心電図】 血圧測定、体位・運動による血圧の変 化、心電図の記録と解釈、呼吸性変動
授業方法	2～8人でグループとなり、実験動物を用いて、または学生相互に観察や実験を行う。測定機器を用いる 実験では、指導員が行うデモンストレーションを観察し、測定記録についての解析を行う。			
成績評価の方法	レポート(20%)、筆記試験(80%)に受講態度を加味し総合的に評価する。			
履修上の留意点	互いに被験者となる観察・実験では、被験者に過度の負担とならないよう配慮すること。 動物実験では、尊い生命を捧げる動物に対して敬意を払うこと。			
教科書等	奈良勲・鎌倉矩子『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学第3版』医学書院			
参考図書等	杉 晴夫『コメディカルのための生理学実習ノート』南江堂			
関連科目	運動生理学(2年)、内科学(2、3年)、神経内科学Ⅰ(2、3年)			
最近の国試出題傾向	神経の伝導速度や心電図についての問題が毎年出題されている。 骨格筋の収縮や感覚についても出題が増えている。			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	運動学Ⅱ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	2	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	原田 憲二 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、運動学Ⅰに続いて関節力学、姿勢など、理学療法士にとって必要となる運動学の知識を習得する。			
学習到達目標	1. 関節力学についての理解を深める。 2. 姿勢の表現、評価についての理解を深める。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【肩関節】 ・肩関節の解剖、運動学など	7	
	2	【肘関節】 ・肘関節の解剖、運動学など	8	
	3	【手関節】 ・手関節の解剖、運動学など	9	
	4	【股関節】 ・股関節の解剖、運動学など	10	
	5	【膝関節】 ・膝関節の解剖、運動学など	11	
	6	【足関節】 ・足関節の解剖、運動学など	12	
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	動きやすい服装での参加が望ましい。			
教科書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
参考図書等	資料配布			
関連科目	解剖学(1年)、生理学(1年)など その他、多くの科目と関連する。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(手関節の解剖・膝関節の解剖・脊椎の画像診断など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	運動学実習			単位数	1	時間数	36
科目区分	専門基礎分野	対象年次	2	学期	通年	授業形態	実習
担当講師	浅原 堅次 原 隆之 谷出 敦子 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、身体機能を測定したうえで、その結果をレポートにまとめるまでのプロセスを習得する。			
学習到達目標	1. 身体機能を正確に測定する。 2. 測定結果をレポートにまとめて提出する。 3. 運動学の視点から関節運動、動作を検討できる。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【オリエンテーション】	7	【レポートオリエンテーション】
	2	【身体触察(骨)】 各骨の指標	8	【血圧計測】
	3	【身体触察(筋)】 上肢・肩甲帯	9	【関節可動域測定・上肢】
	4	【身体触察(筋)】 骨盤帯・下肢	10・11	【関節可動域測定・下肢】
	5	【身体触察(筋)】 体幹・殿部	12	【立ち上がり動作の観察など】
	6	【身体触察(骨・筋)】 まとめ		
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	実技試験(50%)、レポート(50%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	動きやすい服装での参加が望ましい。			
教科書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
参考図書等	特になし			
関連科目	運動学(1年)、解剖学(1年)、生理学(1年)など その他、多くの科目と関連する。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	運動生理学			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	2	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	刈谷 文彦						

授業の概要	本講義では、生理学で学習した内容の一部を復習しながら、行動体力要素に関する事柄や、身体活動量の増減に伴う生理的機能の変化などについて解説する。			
学習到達目標	各体力要素に関連する生理的機能や身体活動量の増減に対する生理的機能の変化について、理解できるようになることを主な目的とする。			
授業内容	回	内 容	回	内 容
	1	体力要素 ・筋力 ・筋パワー	6	総まとめ
	2	体力要素 ・筋持久力、全身持久力 ・調整力、柔軟性		
	3	ウォーミングアップとクーリングダウン ・様々な体力トレーニングの生理的効果 (筋力トレーニング、持久的トレーニング)		
	4	運動時における身体疲労 運動と寿命		
	5	不活動にともなう生理的機能の変化		
授業方法	講義			
成績評価の方法	定期試験(100%)で評価を行う			
履修上の留意点	能動的な態度でのぞむこと			
教科書等	特になし、講義の際にプリントを配布			
参考図書等	運動生理学(石河、杉浦編、建帛社)			
関連科目	生理学 I (1年)・生理学 I (1年)			
最近の国試出題傾向	骨格筋の収縮等に関する問題が出題される			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	臨床心理学			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	2	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	雨森 雅哉 ○心理学に関する実務、教授活動などの経験に基づいた講義						

授業の概要	精神医学等他の隣接領域との相違を明らかにしつつ、臨床心理学についての基礎的な知識を講義する。その中でも適応、葛藤や防衛機制、そして心理検査、心理療法などを中心とする。			
学習到達目標	防衛機制等臨床心理学に関する基礎的概念を理解すること。心理検査と心理療法の概略を理解すること。			
授業内容	回	内 容	回	内 容
	1	・臨床心理学について(精神医学との違い等) ・精神疾患等について	6	総まとめ
	2	・心理検査について 「検査」について、信頼性、妥当性、標準化の手続き、性格検査等		
	3	・心理療法について(精神分析学、来談者中心療法、交流分析等) ・適応とは、葛藤と防衛規制について		
	4	・発達障害等について ・心理検査について(発達検査、知能検査等)		
	5	・心理療法の基礎理論-精神分析学、人間性心理学、学習理論、行動療法、認知行動療法		
授業方法	講義方式、なお、心理検査は実物を学生が見ることができるようにし、実施方法まで教授したい。			
成績評価の方法	出席点(20%)と筆記試験(80%)により成績を評価する			
履修上の留意点	必ず出席し、復習をすること			
教科書等	資料等を配布予定			
参考図書等	松原達哉編著 図解雑学臨床心理学 ナツメ社 奈良勲・鎌倉矩子 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学 医学書院			
関連科目	精神医学(3年)			
最近の国試出題傾向	適応機制(防衛機制)、心理検査と心理療法についての出題がみられる			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	内科学Ⅰ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	2	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	池田 憲 ○臨床現場の実務経験を活かした講義						

授業の概要	近年、高齢者の増加に伴う慢性疾患の増加と疾病構造の変化という現状から、いわゆる内部障害への医学的リハビリテーションのニーズが急速に増加している。 本科目の目的は、内科学の基礎的な分野を学び、臨床における運動実施の可否判定などに役立つ知識を習得することである。			
学習到達目標	1.基礎的な内科学の概念を理解する。 2.基礎的な臨床検査とデータの解釈について理解する。 3.基礎的な薬物療法について理解する。 4.基礎的な症候学について理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【診断の意義と目的】 ・医療面接(現病歴、既往歴)など ・視診、触診、打診、聴診など	6	総まとめ
	2	【臨床検査とデータの解釈】 ・尿、血液、糞便、赤沈とCRP、血液化学検査 ・正常値と基準値、基準範囲の考え方		
	3	【薬物療法】 ・生体内での薬物の動きと薬効 ・内科診療における薬物選択の注意事項		
	4	【症候学】 ・発熱、全身倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐、 易感染性など		
	5	【症候学】 ・意識障害、めまい、浮腫、頭痛、 リンパ節腫脹、ショックなど		
授業方法	講義形式			
成績評価の方法	筆記試験(100%)で評価する。			
履修上の留意点	能動的な態度でのぞむこと			
教科書等	奈良勲・鎌倉矩子『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学第3版』医学書院			
参考図書等	特になし			
関連科目	解剖学Ⅰ(1年)、解剖学Ⅱ(1年)、解剖学Ⅲ(1年)、病理学概論(1年)、内科学Ⅱa(3年) 内科学Ⅱb(3年)、神経内科学Ⅱ(3年)			
最近の国試出題傾向	聴診、リンパ節腫脹は頻出。			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	内科学Ⅱa			単位数	1	時間数	15
科目区分	専門基礎分野	対象年次	3	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	加藤 祐子 ○臨床現場の実務経験を活かした講義						

授業の概要	近年、高齢者の増加に伴う慢性疾患の増加と疾病構造の変化という現状から、いわゆる内部障害への医学的リハビリテーションのニーズが急速に増加している。 本科目の目的は、内科学Ⅰで学んだ知識を基に、より具体的な各論についての知識を深めることである			
学習到達目標	1.循環器疾患を理解する。 2.呼吸器疾患を理解する。 3.消化管疾患を理解する。 4.肝胆膵疾患を理解する 5.血液・造血器疾患を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【循環器疾患】 ・高血圧症、虚血性心疾患、不整脈など ・心電図の読み方		
	2	【呼吸器疾患】 ・咳嗽および喀痰、COPD、拘束性肺疾患など ・スパイロメーター、フローボリューム曲線の読み方など		
	3	【消化管疾患】 ・食道炎、消化管出血など ・消化管の悪性新生物など		
	4	【肝胆膵疾患】 ・肝炎、膵炎など ・肝胆膵の悪性新生物など		
	5	【血液・造血器疾患】 ・貧血、出血傾向など ・白血病、DICなど		
授業方法	講義形式			
成績評価の方法	筆記試験(100%)で成績評価を行う。			
履修上の留意点	能動的な態度でのぞむこと			
教科書等	奈良勲・鎌倉矩子『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学第3版』医学書院			
参考図書等	特になし			
関連科目	解剖学Ⅰ(1年)、解剖学Ⅱ(1年)、解剖学Ⅲ(1年)、病理学概論(1年) 内科学Ⅱb(3年)、神経内科学Ⅱ(3年)			
最近の国試出題傾向	全分野について頻出(特に循環器疾患、呼吸器疾患)。			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	内科学Ⅱb			単位数	1	時間数	18
科目区分	基礎専門	対象年次	3	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	加藤 祐子 ○臨床現場の実務経験を活かした講義						

授業の概要	近年、高齢者の増加に伴う慢性疾患の増加と疾病構造の変化という現状から、いわゆる内部障害への医学的リハビリテーションのニーズが急速に増加している。 本科目の目的は、内科学Ⅰで学んだ知識を基に、より具体的な各論についての知識を深めることである			
学習到達目標	1.代謝性疾患を理解する。 2.内分泌疾患を理解する。 3.腎・泌尿器疾患を理解する。 4.膠原病・アレルギー疾患・免疫不全を理解する。 5.感染症を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【代謝性疾患】 ・糖尿病、高脂血症など ・痛風、骨粗鬆症など	6	総まとめ
	2	【内分泌疾患】 ・ホルモンの作用起序など ・Cushing病、尿崩症、Basedow病、Addison病など		
	3	【腎・泌尿器疾患】 ・尿の性状の異常など ・類縁疾患による腎障害など		
	4	【膠原病・アレルギー疾患・免疫不全】 ・免疫担当細胞など ・RA、SLE、PM/DM、AIDSなど		
	5	【感染症】 ・MRSA、肺炎球菌感染症、食中毒など ・インフルエンザ菌感染症、レジオネラ症など		
授業方法	講義形式			
成績評価の方法	筆記試験(100%)で成績評価を行う。			
履修上の留意点	能動的な態度でのぞむこと			
教科書等	奈良勲・鎌倉矩子『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学第3版』医学書院			
参考図書等	特になし			
関連科目	解剖学Ⅰ(1年)、解剖学Ⅱ(1年)、解剖学Ⅲ(1年)、病理学概論(1年) 内科学Ⅱa(3年)、神経内科学Ⅱ(3年)			
最近の国試出題傾向	全分野について頻出。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	内科学Ⅲ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	高江洲 潤						

授業の概要	近年、高齢者の増加に伴う慢性疾患の増加と疾病構造の変化という現状から、いわゆる内部障害への医学的リハビリテーションのニーズが急速に増加している。 本科目では、内科学Ⅱで学んだ内容を、実際の症例を通してより理解を深めることである。			
学習到達目標	各内科疾患に対して、症例に応じて理学療法を行う際のリスク管理を考慮することができる。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【症例検討】 循環器疾患、呼吸器疾患	7	
	2	【症例検討】 消化管疾患、肝胆膵疾患	8	
	3	【症例検討】 血液・造血器疾患、代謝性疾患	9	
	4	【症例検討】 内分泌疾患、腎・泌尿器疾患	10	
	5	【症例検討】 膠原病・アレルギー疾患、感染症	11	
	6	【総まとめ】	12	
授業方法	学生間でのグループワークを中心に実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)で成績評価を行う。			
履修上の留意点	各疾患について理解しておくことが望ましい。			
教科書等	奈良勲・鎌倉矩子『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学第3版』医学書院			
参考図書等	特になし			
関連科目	解剖学Ⅰ(1年)、解剖学Ⅱ(1年)、解剖学Ⅲ(1年)、病理学概論(1年)、内科学Ⅱa(3年) 内科学Ⅱb(3年)、神経内科学Ⅱ(3年)			
最近の国試出題傾向	各分野について頻出			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	整形外科Ⅰa			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	2	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	小関 博久 ○臨床現場の実務経験を活かした講義						

授業の概要	骨折の種類や治癒過程、骨の成長発育についての知識を習得する。 骨折や脱臼を中心とした整形外科疾患を学び、適切な理学療法を施行するために必要な知識を高める。			
学習到達目標	1. 骨折の種類や治癒過程および骨の成長発育について知識を習得する。 2. 各部位の骨折や脱臼について学び、治療法、予後、合併症および禁忌について深く学ぶ。			
授業内容	回	内 容	回	内 容
	1	【総論】 骨折の種類・骨の成長発育 骨折の基本的治療・骨折の治癒機転	6	【脱臼各論】 下肢の外傷性脱臼 上肢の外傷性脱臼
	2	【骨折各論】 大腿骨の骨折 膝蓋骨および脛骨の骨折		
	3	【骨折各論】 足関節および足部の骨折 鎖骨および上腕骨の骨折		
	4	【骨折各論】 前腕の骨折 手根骨および指の骨折		
	5	【骨折各論】 肋骨・椎体・骨盤骨折		
授業方法	板書を中心に講義を行う。骨折および脱臼の発生機序や整形外科テストおよび治療や治癒過程を視覚的に捉えて理解することを目的としている。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)			
履修上の留意点	整形外科Ⅰaで学ぶ領域は1年次に履修する機能解剖学を基礎に展開される学問であることから、1年次に学ぶ機能解剖学に対する知識を深めたうえで講義に臨むこと。			
教科書等	特に指定しない			
参考図書等	標準整形外科			
関連科目	運動学(1年)、機能解剖学(1年)、整形外科1b(2年)、スポーツ外傷・障害学(2年)、臨床スポーツ医学(2年)、整形外科Ⅱa、Ⅱb(3年)			
最近の国試出題傾向	全ての領域が国試問題頻出			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	整形外科 I b			単位数	2	時間数	33
科目区分	専門基礎分野	対象年次	2	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	小関 博久 ○臨床現場の実務経験を活かした講義						

授業の概要	神経系の知識を基に末梢神経障害や脊髄損傷について深く学習し、理学療法を施行する上での必要な知識を身につける。 退行変性疾患について深く学習し、理学療法を施行する上での必要な知識を身につける。 骨代謝を基に骨粗鬆症の発生機序、分類、合併症について広く学び、理学療法施行上の留意点について学習する。			
学習到達目標	1. 末梢神経の解剖と機能および分類を学習し、各末梢神経障害の発生機序、症状、原因、治療について理解する。 2. 脊髄の解剖と機能および反射や伝導路について学習し、脊髄損傷の病期および損傷部位の違いによる所見、症状、合併症、機能の違いについて深く学習する。 3. 変形性関節症・変形性脊椎症・肩関節周囲炎についての発生機序、症状、原因、治療について理解する。 4. 骨代謝について学習し、骨粗鬆症の発生機序、分類、合併症、所見、治療について理解する。			
授業内容	回	内 容	回	内 容
	1	【末梢神経障害】 末梢神経の解剖・機能・分類 末梢神経障害の分類・症状・治療	7	【退行変性疾患】 変形性関節症の進行機序と原因 変形性関節症の病態と症状
	2	【末梢神経障害各論】 腕神経叢損傷・節前節後損傷 橈骨・尺骨・正中神経麻痺	8	【退行変性疾患各論】 好発部位と原因および所見 変形性脊椎症の進行機序と原因
	3	【末梢神経障害各論】 腋窩・肩甲上・長胸神経麻痺 腰仙神経叢・下肢の末梢神経障害	9	【退行変性疾患各論】 変形性脊椎症の所見と症状 変形性脊椎症の部位別所見と症状
	4	【脊髄損傷】 脊髄の解剖と機能 伝導路・深部反射	10	【退行変性疾患各論】 肩関節周囲炎の種類・病態・治療 腱板断裂
	5	【脊髄損傷各論】 脊髄損傷の原因と症状 不全麻痺	11	【骨粗鬆症】 骨代謝の基礎 骨粗鬆症の定義・分類・症状 骨粗鬆症の合併症・治療
	6	【脊髄損傷各論】 髄節各論・脊髄損傷の合併症		
授業方法	板書を中心に講義を行う。末梢神経障害・脊髄損傷・退行変性疾患・骨粗鬆症の発生機序や検査方法ならびに治療や治療過程を視覚的に捉えて理解することを目的としている。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)			
履修上の留意点	整形外科Ⅰbで学ぶ領域は1年次に履修する機能解剖学・解剖学・生理学を基礎に展開される学問であることから、1年次にの習得した知識を整理したうえで講義に臨むこと。			
教科書等	特に指定しない			
参考図書等	小関博久(編)『外来整形外科のための退行変性疾患の理学療法』医歯薬出版			
関連科目	運動学(1年)、解剖学(1年)、生理学(1年)、機能解剖学(1年)、整形外科Ⅰa(2年)、スポーツ外傷・障害学(2年)、臨床スポーツ医学(2年)、整形外科Ⅱa、Ⅱb(3年)			
最近の国試出題傾向	全ての領域について国試頻出			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	整形外科Ⅱa			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	3	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	小関 博久 ○臨床現場の実務経験を活かした講義						

授業の概要	リウマチ性疾患について深く理解し、理学療法を施行する上での禁忌や予後、合併症について深く学ぶ。 頸椎・胸椎・腰椎・股関節・膝関節の整形外科疾患について学習し、理学療法を適切に施行する上での必要な知識を身につける。			
学習到達目標	1. リウマチの疫学・病因・症状・検査所見・治療について理解する。 2. 頸椎・胸椎・腰椎・股関節・膝関節の整形外科疾患について広く学習し、それぞれの病態・原因・症状・所見・評価方法・合併症・治療について理解する。			
授業内容	回	内 容	回	内 容
	1	【リウマチ性疾患】 リウマチの病因・症状・診断基準 リウマチの治療 強直性脊椎炎の病態・症状・評価・治療	4	【腰椎の疾患】 腰椎椎間板ヘルニアの原因・疫学・症状 分類・評価・治療 腰椎分離症・腰椎圧迫症・腰部脊柱管狭窄症の病態・原因・症状・治療
	2	【頸椎の疾患】 Myelopathyとradiculopathy 頸椎椎間板ヘルニアの病態・疫学・原因 症状・分類・確定診断・治療 頸部脊椎症性脊髄症の病態・症状・分類 確定診断・治療	5	【腰椎の疾患】 二分脊椎の病態・疫学・分類・症状・治療 【股関節の疾患】 发育性股関節形成不全 臼蓋形成不全・ペルテス病・大腿骨頭壊死の病態・原因・疫学・症状・治療・予後
	3	【頸椎の疾患】 頸椎症性神経根症・頸椎後縦靱帯骨化症 胸郭出口症候群の分類・症状・評価・治療 【胸椎の疾患】 脊柱側弯症の分類・疫学・所見・治療 シヨイエルマン病・胸椎椎間板ヘルニア	6	【股関節の疾患】 変形性股関節症・大腿骨頭圧迫症・弾発股 特発性大腿骨頭壊死・ステロイド関節症 【膝関節の疾患】 変形性膝関節症・プロトン病 分離膝蓋骨・偽痛風・シャルコー関節
	授業方法			
	板書を中心に講義を行う。リウマチ性疾患、頸椎・胸椎・腰椎・股関節・膝関節の整形外科疾患の発生機序や検査方法ならびに治療や治療過程を視覚的に捉えて理解することを目的としている。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)			
履修上の留意点	整形外科Ⅱaで学ぶ領域は1年次に履修する機能解剖学を基礎に展開される学問であることから、1年次に学ぶ機能解剖学に対する知識を深めたいと講義に臨むこと。			
教科書等	特に指定しない			
参考図書等	小関博久(編)『外来整形外科のための退行変性疾患の理学療法』医歯薬出版			
関連科目	運動学(1年)、機能解剖学(1年)、整形外科Ⅰa・Ⅰb(2年)、スポーツ外傷・障害学(2年)、臨床スポーツ医学(2年)、整形外科Ⅱb(3年)			
最近の国試出題傾向	全ての領域において国試頻出			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	整形外科学Ⅱb			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	3	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	小関 博久 ○臨床現場の実務経験を活かした講義						

授業の概要	足・上肢の整形外科疾患について学習し、理学療法を適切に施行する上で必要な知識を身につける。 CRPS(RSD)や全身性関節疾患について学習し、理学療法実施上の禁忌や予後について深く学ぶ。 骨腫瘍や感染症および切断肢、骨端症について学習し、理学療法を施行する上での必要な知識を身につける。清潔動作や手術室での注意点について学習し、医療に携わる上での必要な知識を学ぶ。			
学習到達目標	1. 足や上肢の整形外科疾患について広く学習し、それぞれの病態・原因・症状・所見・評価方法・合併症・治療について理解する。 2. CRPS(RSD)や全身性関節疾患について広く理解する 3. 骨腫瘍や感染症および切断肢、骨端症について学習する。 4. 清潔操作手術室での注意点について理解する			
授業内容	回	内 容	回	内 容
	1	【足の疾患】 先天性内反足・扁平足・外反母趾等の病態・原因・疫学・症状・治療 アキレス腱周囲炎・シーバー病等の病態・原因・疫学・症状・治療	4	【骨腫瘍】 骨腫瘍の分類・所見・治療 癌の骨転移 骨肉腫・多発性骨髄腫・軟骨肉腫 骨軟骨種・内軟骨種
	2	【上肢の疾患】 動揺肩・反復性肩脱臼・スプレングル変形等の病態・原因・症状・所見・治療 上腕骨外側上顆炎・キーンベック病等の病態・原因・症状・治療	5	【骨・関節の感染症】 化膿性骨髄炎・化膿性関節炎 脊椎カリエスの病態・所見・原因・治療 【切断肢】 適応・切断術・処理 特殊切断・断端訓練・合併症
	3	【CRPSと全身性関節疾患】 CRPSの概念・定義・病態・症状・分類 血友病・痛風・神経病性関節症・偽痛風	6	【骨端症・清潔操作】 骨端症の種類と部位 清潔・不潔・手術室での注意
授業方法	板書を中心に講義を行う。足と上肢の整形外科疾患・CRPS・全身性関節疾患・骨腫瘍・感染症・切断・骨端症の発生機序や検査方法ならびに治療や予後を視覚的に捉えて理解することを目的としている。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)			
履修上の留意点	機能解剖学だけでなく様々な分野と関連するため、今まで履修した教科を踏まえたうえで講義に臨むこと			
教科書等	特に指定しない			
参考図書等	小関博久(編)『外来整形外科のための退行変性疾患の理学療法』医歯薬出版			
関連科目	運動学(1年)、機能解剖学(1年)、整形外科Ⅰa・Ⅰb(2年)、スポーツ外傷・障害学(2年)、臨床スポーツ医学(2年)内科学Ⅰ(2年)、整形外科Ⅱb(3年)、内科学Ⅱ(3年)			
最近の国試出題傾向	全ての領域において国試頻出			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	神経内科学 I			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	2	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	池田 憲 ○臨床現場の実務経験を活かした講義						

授業の概要	近年の高齢化によって疾病構造が大きく変化し、リハビリテーションの対象となる疾患の中心は脳血管障害やパーキンソン病に代表される中枢神経系の疾患と骨関節疾患に移行しつつある。本科目では神経疾患の病態に限らず、治療法や合併症などの理解も深め、リハビリテーションを効果的に進めるために必要な多くの知識を学び、患者様のQOL向上の一翼を担える人材を育成する。			
学習到達目標	1.中枢神経系の解剖と機能を理解する。 2.基本的な神経学的診断法を理解する。 3.基本的な神経症候学を理解する。 4.代表的な神経疾患と合併症を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【中枢神経系の解剖と機能】 ・中枢神経の構造 ・中枢神経系の機能、末梢神経	6	総まとめ
	2	【神経学的診断法】		
	3	【神経症候学】		
	4	【代表的な神経疾患】 ・脳血管障害 ・パーキンソン病		
	5	【代表的な神経疾患】 ・脊髄小脳変性症 ・筋ジストロフィー症		
授業方法	教科書と参考図書を用いて神経内科学総論を中心に講義を行う。臨床神経学をはじめて学習するので、特に神経内科学の基礎となる神経解剖や生理に対する興味を深め、理解ができることを目標にする。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)で成績評価を行う。			
履修上の留意点	神経内科学は2年次と3年次に行うので、2年次では解剖や生理学を含めた神経学の総論の理解と習得が重要である。			
教科書等	奈良勲・鎌倉矩子『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学第4版』医学書院			
参考図書等	江藤文夫・飯島節『神経内科学テキスト』南光堂			
関連科目	病理学概論(1年)、内科学 I (2年)、内科学 II (3年)、神経内科学 II (3年)			
最近の国試出題傾向	中枢神経系の解剖と機能・神経症候学は頻出。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	神経内科学Ⅱ a.b			単位数	2	時間数	33
科目区分	専門基礎分野	対象年次	3	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	池田 憲 ○臨床現場の実務経験を活かした講義						

授業の概要	本科目では、神経内科学Ⅰで学んだ総論の知識を基盤とし、理学療法士として臨床的に関わることの多い各疾患の病態および診断方法(画像診断を含む)、治療などについて詳しく説明する。			
学習到達目標	1.代表的な各疾患の病態を理解する。 2.代表的な各疾患の基本的な診断方法(画像診断を含む)を理解する。 3.代表的な各疾患の基本的な治療を理解する。 4.代表的な各疾患を担当した際に、どのような支援ができるかについて思いを巡らせることができる。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1・2	【脳血管障害】 脳出血・脳梗塞・くも膜下出血 高次脳機能障害など	7	【脱髄性疾患】 多発性硬化症 急性散在性脳脊髄炎など
	3	【錐体外路障害】 パーキンソン病・パーキンソン症候群 不随意運動を主症状とする疾患など	8	【末梢神経障害】 ギランバレー症候群・CIDP 糖尿病性、癌性ニューロパチーなど
	4	【認知症・てんかん】 脳血管性・Alzheimer型・Pick病 Lewy小体型認知症など	9	【神経筋疾患】 デュシェンヌ型筋ジストロフィー 重症筋無力症・多発性筋炎など
	5	【変性疾患】 脊髄小脳変性症など	10	【感染性疾患】 脳炎・髄膜炎・脳膿瘍 Creutzfeldt-jakob病など
	6	【運動ニューロン疾患】 筋萎縮性側索硬化症 脊髄性進行性筋萎縮症など	11	【小児神経疾患】 Down症候群・先天性代謝異常など
授業方法	講義形式			
成績評価の方法	筆記試験(100%)で成績評価を行う。			
履修上の留意点	能動的な態度でのぞむこと			
教科書等	奈良勲・鎌倉矩子『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学第4版』医学書院			
参考図書等	江藤文夫・飯島節『神経内科学テキスト』南光堂			
関連科目	病理学概論(1年)、内科学Ⅰ(2年)、内科学Ⅱ(3年)、神経内科学Ⅰ(2年)			
最近の国試出題傾向	脳の画像所見から症状を予測する問題が増加している。 錐体外路障害・末梢神経障害・神経筋疾患は頻出。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	精神医学			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	3	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	黒田 みゆき 米田 恵美						

授業の概要	精神医療の様々な役割について理解を深める。各論では各疾患に対して精神病理学的解説を行うことで精神障害についての理解を深め、様々な人に応用できる幅広い精神科の基礎を身に付ける。この授業を通して医療チームの一員としても活躍できるセンスの習得を期待する。			
学習到達目標	1. 精神障害を正しく理解する。 2. 精神障害に関連する歴史、治療、福祉、法律などを理解する。 3. 精神障害者を取り巻く環境について理解する。			
授業内容	回	内 容	回	内 容
	1	・精神医学とは ・精神医療の歴史的変遷	6	総まとめ
	2	・精神機能の障害と精神症状 ・統合失調症		
	3	・気分(感情)障害 ・認知症		
	4	・精神作用物質による精神及び行動の障害 ・てんかん、精神遅滞 ・児童・思春期の精神疾患		
	5	・神経症性障害 ・摂食障害 ・成人の人格・行動・性の障害		
授業方法	視聴覚教材やプリントなどを用いた講義形式			
成績評価の方法	筆記試験(100%)で成績評価を行う。			
履修上の留意点	配布されたプリント類は整理し、教科書・ノートとともに授業毎持参すること。 視覚教材はメモを取り、内容や学び、感想等整理しておくこと。			
教科書等	奈良勲・鎌倉矩子『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第3版』医学書院			
参考図書等	特になし			
関連科目	解剖学(1年)、心理学(1年)、小児科学(3年)			
最近の国試出題傾向	防衛機制、記憶、心理検査、発達段階、心理(精神)療法、転移・逆転移、各精神疾患の特徴及び薬物療法など			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	臨床スポーツ医学			単位数	2	時間数	33
科目区分	専門基礎分野	対象年次	2	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	栗山 節郎／米川 正悟／川島 敏生 ○臨床現場の実務経験を活かした講義						
授業の概要	1. 本科目では、スポーツ医学に関する基礎的な知識を習得し、同時にスポーツ選手の身体管理、好成績の出し方、故障の予防、治療方法などを学ぶ。						
学習到達目標	1. 基礎的なスポーツ医学を理解する。 2. スポーツ選手の身体管理などを理解する。						
授業内容	回	内容		回	内容		
	1	【靱帯損傷】 ・ACL、PCL損傷など		7	【スポーツ外傷】 ・野球肘、ストレステストなど		
	2	【テーピング】 ・フィギュア8、ヒールロックなど		8	【スポーツ傷害の発生要因】 ・スポーツ傷害の疫学など		
	3	【ドーピング】 ・予防対策など		9	【スポーツ傷害と機能解剖】 ・スポーツ傷害の発生起序など		
	4	【正常と異常】 ・歩行など		10	【スポーツ傷害の理学療法】 ・関節可動域訓練など		
	5	【正常と異常】 ・肩の運動学など		11	【スポーツ傷害の理学療法】 ・筋力増強訓練など		
	6	【スポーツ外傷】 ・野球肘、ストレステストなど					
授業方法	講義形式						
成績評価の方法	出席率、授業態度を加味し、レポート課題(66%)、筆記試験(34%)にて評価する。						
履修上の留意点	能動的な態度でのぞむこと。						
教科書等	資料配布						
参考図書等	資料配布						
関連科目	スポーツ外傷・障害学(2年)						
最近の国試出題傾向	肩関節、膝関節のスポーツ外傷に関する問題は頻出。						

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	スポーツ外傷・障害学			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	2	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	小関 博久 ○臨床現場の実務経験を活かした講義						

授業の概要	外傷と障害の違いや、外傷の分類および処置方法について理解を深める。 スポーツ外傷・障害の発生機序や原因を詳細に理解し、適切な理学療法が実施できるために必要な知識の取得を目的としている。			
学習到達目標	1. 外傷と障害の違いについて理解し、外傷の処置について理解する。 2. スポーツ障害の発生機序、原因、整形外科テスト、禁忌を学習する。			
授業内容	回	内 容	回	内 容
	1	【外傷と障害・スポーツ障害各論】 外傷の定義と処置方法 スポーツヘルニア・骨盤裂離骨折	6	総まとめ
	2	【スポーツ障害各論】 膝関節のスポーツ障害 (膝関節靱帯損傷・半月板損傷等)		
	3	【スポーツ障害各論】 下腿・足関節・足部のスポーツ障害 (シンスプリント・足関節靱帯損傷等)		
	4	【スポーツ障害各論】 肩関節のスポーツ障害 (インピンジメント症候群・野球肩等)		
	5	【スポーツ障害各論】 肘関節のスポーツ障害 (野球肘・上腕骨外側上顆炎等)		
授業方法	板書を中心に講義を行う。特にスポーツ障害に関しては発生機序や整形外科テストおよび治療を視覚的に捉えて理解することを目的としている。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)で成績評価を行う。			
履修上の留意点	スポーツ外傷・障害学は1年次に履修する機能解剖学を基礎に展開される学問であることから、1年次に学ぶ機能解剖学に対する知識を深めたうえで講義に臨むこと。			
教科書等	特に指定しない			
参考図書等	特に指定しない			
関連科目	運動学(1年)、機能解剖学(1年)、整形外科Ⅰa・Ⅰb(2年)、臨床スポーツ医学(2年)、整形外科Ⅱa、Ⅱ(3年)			
最近の国試出題傾向	膝関節・足関節靱帯損傷、野球肩、外傷処置等すべての範囲にわたって頻出する。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	コミュニケーション論			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	3	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	佐野 純平						

授業の概要	1. 本科目の目的は、人間は生きている限り周囲とのメッセージのやりとりを行い続けているのだということに自覚を持ち、円滑な人間関係を築けるコミュニケーション能力を習得することである。			
学習到達目標	1. コミュニケーションとは何かを理解する。 2. コミュニケーションの重要性について理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【総論】 ・コミュニケーションとは	7	
	2	【自我とコミュニケーション】 ・社会学の立場からなど	8	
	3	【身体とコミュニケーション】 ・非言語的コミュニケーションなど	9	
	4	【組織とコミュニケーション】 ・病院でのコミュニケーションなど	10	
	5	【他者とのコミュニケーション】 ・患者とのコミュニケーションなど	11	
	6	【総括】	12	
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	レポート課題(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	理学療法概論について理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	理学療法ハンドブック			
関連科目	リハビリテーション概論(1年)			
最近の国試出題傾向	面接手法について出題あり			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	小児科学(特別講義)			単位数	1	時間数	15
科目区分	専門基礎分野	対象年次	3	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	清水 教一、三嶋 典子 ○臨床現場の実務経験を活かした講義						

授業の概要	人の正常発達・成長を理解し、多様な要因によって生じた疾患を把握する。			
学習到達目標	1. 小児期の成長・発達等を理解する。 2. 理学療法の対象となる小児疾患の概要について理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	小児科学概論	7	
	2	先天異常と遺伝病	8	
	3	小児内分泌	9	
	4	新生児	10	
	5	小児の神経・筋疾患	11	
	6		12	
授業方法	講義形式			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	教科書を精読すること			
教科書等	標準理学療法学作業療法学 小児科学 第4版			
参考図書等	こどもの理学療法 第2版			
関連科目	疾患別理学療法Ⅳ(3年)			
最近の国試出題傾向	小児疾患の運動療法に関する問題は頻出。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	理学療法研究法			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	高柳 清美 山際 清貴						

授業の概要	1. 本科目の目的は、理学療法の実践に限らず、研究や教育の分野でも活躍し得る研究の方法論を学び、習得することである。			
学習到達目標	1. 研究法の重要性を理解する。 2. 初歩的な統計手法を理解する。 3. 文献の精読方法を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【総論】 ・研究とは		
	2	【理学療法研究の展開】 ・テーマの発見など		
	3	【基本統計】 ・記述統計の進め方など		
	4	【文献の検索】 ・文献収集の方法など		
	5	【研究発表の仕方】 ・口述発表など		
	6	【国家試験対策】		
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	課題レポート(100%)に出席率、授業態度を加味して評価する。			
履修上の留意点	理学療法のトピックスについて理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	奈良勲『理学療法研究法 第2版』医学書院			
関連科目	統計学(1年)			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に1問出題			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	リスク管理学			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	川島 敏生 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 医療におけるリスク管理は社会のニーズであり、真摯に取り組まなければならない課題である。 2. 本科目の目的は、リスク管理に関する基礎的な知識を学び、安全にリハビリテーションを提供できる能力を習得することである。			
学習到達目標	1. リスク管理の重要性を理解する。 2. リスク管理の具体的な方法を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【総論】 ・リスク管理とは、一般リスク	7	
	2	【医療過誤】 ・医療と訴訟など	8	
	3	【バイタルサイン】 ・心拍数、呼吸数など	9	
	4	【リスク管理機器】 ・サチュレーション、心電図など	10	
	5	【リハ中のリスク管理】 ・アンダーソンの基準など	11	
	6	【国家試験対策】	12	
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	理学療法の全体像について理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	特になし			
関連科目	内科学(2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に10問程の出題(起き上がり時・歩行時・運動療法中・血液データの読み方など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	理学療法教育管理学			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	小野 晋 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目の目的は、現在の医療制度が理学療法現場にもたらす影響などを鑑み、病院の運営やリハビリテーション科の運営の基礎知識を習得することである。			
学習到達目標	1. 現在の医療制度を理解する。 2. 病院経営の方法を簡単に理解する。 3. リハビリテーション科運営の方法を簡単に理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【総論】 ・国民皆保険制度など	7	
	2	【介護保険制度】 ・介護保険の概要など	8	
	3	【医療における安全管理】 ・リスクマネジメントなど	9	
	4	【医療機関の運営と管理】 ・運営の実際など	10	
	5	【リハ科の運営と管理】 ・運営の実際など	11	
	6	【国家試験対策】	12	
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	理学療法の全体像について理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	資料配布			
関連科目	理学療法概論(1年)			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	病態運動学			単位数	3	時間数	48
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	後	授業形態	講義
担当講師	高江洲 潤 山際 清貴 植竹 駿一 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目は、各病態における動作の特徴を理解し、根拠を持った動作分析を習得することである。			
学習到達目標	1. 各病態における歩行分析を習得する。 2. 各病態における動作分析を習得する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【病態運動学とは】 ・動作分析の考え方など	12～13	【腰痛症】 ・歩行分析、動作分析など
	2～3	【脳卒中】 ・歩行分析、動作分析など	14～15	【高齢者】 ・歩行分析、動作分析など
	4～5	【パーキンソン病】 ・歩行分析、動作分析など	16	【総括】
	6～7	【脊髄小脳変性症】 ・歩行分析、動作分析など		
	8～9	【変形性股関節症】 ・歩行分析、動作分析など		
	10～11	【変形性膝関節症】 ・歩行分析、動作分析など		
授業方法	講義と実習を合わせて実施する(DVD教材も併用)。			
成績評価の方法	筆記試験(80%)、実技試験(20%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の動作について理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	奈良勲 『臨床動作分析』 医学書院			
関連科目	運動学(1～2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(パーキンソン病の歩行・疾患別の歩行の特徴・歩行周期など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	検査測定学Ⅱ			単位数	1	時間数	36
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	前期	授業形態	実習
担当講師	澤田 譲治 高江洲 潤 佐野 純平 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 評価とは、患者の持つ症状や障害を把握して、患者の将来を予測する過程である。 2. 本科目の目的は、各評価に必要な手技を習得することのみならず、評価結果に対する原因の考察、今後の方針まで考える力を習得することである。			
学習到達目標	1. 理学療法評価の目的を理解する。 2. 理学療法評価の手技や手順を理解する。 3. 理学療法評価の時期を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【総論】 評価の重要性、注意点など	7	【脳神経検査】 舌咽神経、副神経、など
	2	【形態測定】 四肢長、周径など	8	【協調性検査】 踵膝試験、鼻指試験など
	3	【筋トーンス検査】 痙性・固縮の評価、懸振性検査など	9	【協調性検査】 回内回外試験など
	4	【反射検査】 腱反射・病的反射の評価など	10	【疼痛検査】 Visual Analogue Scaleなど
	5	【脳神経検査】 嗅神経、視神経、動眼神経など	11	【感覚検査】 表在感覚、深部感覚など
	6	【脳神経検査】 三叉神経、顔面神経など	12	【総括】 まとめ
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(50%)、実技試験(50%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	動きやすい服装での参加が望ましい。			
教科書等	松澤正 『理学療法評価学 改訂第5版』 金原出版 『病気がみえるvol. 7 脳・神経』MEDIC MEDIA 田崎義昭 『ベッドサイドの神経の診かた第19版』南山堂			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(1年)、理学療法評価法Ⅰ(1年)・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に10問程度出題(筋緊張・病的反射・失調症の試験など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	検査測定学Ⅲ			単位数	1	時間数	36
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	前期	授業形態	実習
担当講師	川島 敏生 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 徒手筋力検査法(MMT)は、理学療法評価を実施するうえで基本的な手技であり、必須の技術である。 2. 本科目の目的は、全身の筋の筋力を正確かつ迅速に測定する技術を習得することのみならず、筋力低下の原因や、その改善方法まで考える力を習得することである。			
学習到達目標	1. MMTの概念や目的を理解する。 2. MMTの手技や手順を理解する。 3. 筋力低下などの原因を追究し、改善策を講じる力を習得する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【総論】 MMTの歴史、概念、原理など	7	【下肢の筋力テスト】 股関節の筋など
	2	【頸筋のテスト】 頸部屈曲、伸展、側屈、回旋など	8	【下肢の筋力テスト】 膝関節の筋など
	3	【体幹筋のテスト】 体幹屈曲、伸展、回旋、骨盤挙上など	9	【下肢の筋力テスト】 足関節、足趾の筋など
	4	【上肢の筋力テスト】 肩甲帯の筋など	10	【脳神経支配筋のテスト】 眼球、顔面、舌の筋など
	5	【上肢の筋力テスト】 肩関節、肘関節の筋など	11	【実技演習】
	6	【上肢の筋力テスト】 手関節、手指の筋など	12	【実技演習および総括】
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(50%)、実技試験(50%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	動きやすい服装での参加が望ましい。			
教科書等	津山直一『新・徒手筋力検査法 第9版』共同医書			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(1年)、理学療法評価法Ⅰ(1年)・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ(2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(上下肢のMMT・顔面のMMTなど)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	検査測定学Ⅳ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	澤田 譲治 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 評価とは、患者の持つ症状や障害を把握して、患者の将来を予測する過程である。 2. 本科目では、他の検査測定学の範疇に含まれない様々な検査項目に関する技術の習得することのみならず、各障害の原因や、その改善方法まで考える力を習得することである。			
学習到達目標	1. バランスの評価に関する手技や手順を理解する。 2. 歩行の評価に関する手技や手順を理解する。 3. 摂食・嚥下機能の評価に関する手技や手順を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【総論】 評価とは、評価の必要性など	7	
	2	【バランスの評価】 静的バランス評価など	8	
	3	【バランスの評価】 動的バランス評価など	9	
	4	【歩行の評価】 歩行スピード、歩行距離の評価など	10	
	5	【摂食・嚥下の評価】 嚥下反射、とろみ食の紹介など	11	
	6	【まとめ】 総復習	12	
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	課題レポート(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	動きやすい服装での参加が望ましい。			
教科書等	松澤正 『理学療法評価学 改訂第4版』 金原出版			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック 臨床評価指標入門 など			
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(1年)、運動学(1年)、検査測定学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(失調症の評価・歩行の評価など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	検査測定学Ⅴ			単位数	1	時間数	36
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	通年	授業形態	実習
担当講師	山際 清貴 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目の目的は、主に中枢神経系の解剖、病態、急性期の理学療法に関する知識を習得することである。 2. 急性期からの関わりについて理解を深め、早期リハビリテーションに携わる専門職としての知識、技術を習得することを目的とする。			
学習到達目標	1. 中枢神経系の解剖を理解する。 2. 脳血管障害の病態を理解する。 3. 脳血管障害に関する理学療法の評価方法を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【総論】 中枢神経とは、脳血管障害とは	7	【脳血管障害急性期】 ICUの役割など
	2	【中枢神経系の解剖学】 大脳・中脳・小脳・脳幹の解剖学など	8	【リスク管理】 バイタルサインなど
	3	【脳血管障害】 脳出血、脳梗塞、クモ膜下出血など	9	【急性期の理学療法】 ICUでの理学療法など
	4	【脳血管障害の病態】 錐体路徴候、錐体外路徴候など	10	【回復期の理学療法】 回復期に行う運動療法・理学療法
	5	【脳血管障害の評価①】 運動麻痺、バランスなど	11	【維持期・生活期の理学療法】
	6	【脳血管障害の評価②】 高次脳機能検査など	12	【総括および国家試験対策】 まとめ
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	解剖学全般について復習しておくことが望ましい。			
教科書等	松澤正 『理学療法評価学 改訂第4版』 金原出版			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(1年)、理学療法評価学Ⅰ(1年)・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に15問程度出題(中枢神経の解剖・急性期の治療・リスク管理など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	検査測定総括			単位数	2	時間数	36
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	佐野 純平 原 隆之 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 評価とは、患者の持つ症状や障害を把握して、患者の将来を予測する過程である。 2. 本科目の目的は、臨床で必要とされる様々な評価を統合・解釈できる能力を習得することである。			
学習到達目標	1. 評価項目全般についての手技や手順を再確認する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【形態測定】 四肢長、周径など	7	【片麻痺運動機能検査】 Brunnstrom Testなど
	2	【関節可動域測定】 全身の関節可動域測定など	8	【脳神経検査】 嗅神経、顔面神経など
	3	【筋力検査】 徒手筋力検査など	9	【日常生活活動検査】 Barthel Index、FIMなど
	4	【感覚検査】 表在感覚、深部感覚、疼痛検査など	10	【動作分析】 歩行分析、動作観察など
	5	【反射検査】 深部反射、表在反射など	11	【ケーススタディ】
	6	【協調性検査】 運動失調検査、バランステストなど	12	【総括】
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(50%)、実技試験(50%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	動きやすい服装での参加が望ましい。			
教科書等	松澤正『理学療法評価学 改訂第3版』金原出版			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(1年)、検査測定学Ⅰ～Ⅴ(1、2年)、動作分析学(3年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(片麻痺機能検査・感覚検査・動作分析など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	動作分析学 I			単位数	1	時間数	33
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	前期	授業形態	実習
担当講師	原 隆之 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 動作分析は理学療法士にとって最も重要でもあり、また基本的な技能でもある。動作分析には動作パターンによる分析、力学的モデルによる分析などの種類があり、どちらも必須の知識である。 2. 本科目の目的は、動作分析の基礎的な知識を講義形式で学び、基本姿勢・動作の観察する能力を習得することである。			
学習到達目標	1. 基本姿勢・正常動作の観察と分析を理解する。 2. 臨床における動作分析の進め方を理解する。 3. バイオメカニクスに基づき、考察する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【バイオメカニクスを学ぶ】 ・バイオメカニクスとは	7	【動作観察のポイント】 寝返り動作について
	2	【姿勢を記録する】 ・姿勢の記録など	8	【動作観察のポイント】 起き上がり動作について
	3	【姿勢観察のポイント】 ・臥位のポイント	9	【動作観察のポイント】 立ち上がり動作、しゃがみ動作について
	4	【姿勢観察のポイント】 ・座位のポイント	10	【動作観察のポイント】 歩行観察
	5	【姿勢観察のポイント】 ・立位のポイント	11	【総括】 動作観察のまとめ
	6	【総括】 姿勢観察のまとめ	12	
授業方法	講義形式			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各動作の特徴を理解しておくことが望ましい。 運動学・バイオメカニクスの復習をしておくこと			
教科書等	資料配布			
参考図書等	『標準理学療法学 専門分野 臨床動作分析』医学書院 『標準理学療法学 専門分野 』医学書院 病態運動学			
関連科目	検査測定学(1年) 運動学(1年・2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(姿勢の評価など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	動作分析学Ⅱ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	佐野 純平 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 動作分析は理学療法士にとって最も重要でもあり、また基本的な技能でもある。動作分析には動作パターンによる分析、力学的モデルによる分析などの種類があり、どちらも必須の知識である。 2. 本科目の目的は、動作分析学Ⅰで習得した知識を基盤に、より詳細な動作分析が可能となるような知識を習得することである。			
学習到達目標	1. 正常動作の観察と分析を詳細に理解する 2. 臨床における動作分析の進め方を詳細に理解する 3. 疾患別の異常動作を詳細に理解する			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【動作分析学Ⅰの復習】 ・バイオメカニクスなど		
	2	【動作分析の方法】 ・動作分析の書き方		
	3	【寝返りの動作分析】		
	4	【起き上がりの動作分析】		
	5	【立ち上がりの動作分析】		
	6	【まとめ】		
授業方法	映像を見て分析の実習をする			
成績評価の方法	課題(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各動作の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	臨床動作分析 基礎運動学 理学療法ハンドブック 『標準理学療法学 専門分野 病態運動学』医学書院 『観察による歩行分析』医学書院			
関連科目	検査測定学Ⅰ～Ⅴ(1、2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	運動療法学Ⅱ			単位数	1	時間数	36
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	後期	授業形態	実習
担当講師	谷出 敦子 佐野 純平 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 運動療法は、理学療法の最も大きな柱として位置付けられている。解剖学や生理学、運動学、あるいは病理学などを背景に、理学療法士が得意としなければならない分野である。 2. 本科目の目的は、運動療法学Ⅰで習得した基礎知識を基に、各種運動療法の知識と技術を習得することである。			
学習到達目標	1. 各種運動療法の方法を説明できる。 2. 各種運動療法の効果を説明できる。 3. 各種運動療法を健常者に対して施行できる。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【基本的運動の種類】 他動運動と自動運動など	7	【バランス運動】 各姿勢におけるバランス課題
	2	【姿勢保持の改善】 動的姿勢改善の治療法	8	【筋力増強運動】 基本的原則など
	3	【基本動作の獲得】 基本動作のパターンと指導方法	9	【筋力増強運動】 具体的方法など
	4	【歩行練習】 歩行補助具を用いた歩行練習	10	【持久力増強運動】 全身・筋持久力増強運動の原則と方法
	5	【関節可動域練習】 基本的アプローチ法、関節モビライゼーション	11	【協調性運動】 起居移動動作の進め方、弾性緊縛法、フレンケル体操など
	6	【関節可動域練習】 筋ストレッチング	12	【総括】 総復習
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(50%)、実技試験(50%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	動きやすい服装にて参加すること。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	配付資料、市橋 則明『運動療法学 第2版』文光堂 奈良勲『標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第3版』医学書院 基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	運動療法学Ⅰ(1年)、運動療法学Ⅲ(3年)、疾患別理学療法Ⅰ・Ⅲ(2年・3年)など その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(ストレッチ・杖・筋力増強運動など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	運動療法学Ⅲ			単位数	1	時間数	36
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	後期	授業形態	実習
担当講師	川島 敏生 谷出 敦子						

授業の概要	1. 運動療法は、理学療法の最も大きな柱として位置付けられている。解剖学や生理学、運動学、あるいは病理学などを背景に、理学療法士が得意としない分野である。 2. 本科目の目的は、運動療法学Ⅱで学んだ運動療法の知識・技術を精練すると同時に、臨床に即した運動療法の考え方を習得することである。			
学習到達目標	1. 各種機能障害に対する臨床推論・問題点について説明できる。 2. 臨床推論・問題点を踏まえた運動療法を選択できる。 3. 機能障害によるリスクを考慮した、各種運動療法を実施できる。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	筋力、筋持久力低下に対する運動療法の実際	7	中枢神経障害に対する運動療法の実際
	2	関節可動域障害に対する運動療法の実際	8	代謝機能障害に対する運動療法の実際
	3	バランス機能障害に対する運動療法の実際	9	末梢神経障害に対する運動療法の実際
	4	呼吸機能障害に対する運動療法の実際	10	基本動作障害に対する運動療法の実際
	5	循環機能障害に対する運動療法の実際	11	加齢による運動機能障害に対する運動療法の実際
	6	協調性障害に対する運動療法の実際	12	スポーツ障害・外傷に対する運動療法の実際
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(50%)、実技試験(50%)			
履修上の留意点	動きやすい服装での参加が望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	「理学療法学テキスト 運動療法学」MEDICAL VIEW			
関連科目	解剖学(1年)、生理学(1年)、運動学(1年)、病理学(1年)、運動療法Ⅱ(2年)、疾患別理学療法学 その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	疾患・症状・発症時期に応じた運動療法について出題される。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	運動療法学Ⅳ			単位数	1	時間数	30
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	松田 俊彦 石谷 勇人 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	近年、スポーツ医学は、競技スポーツレベルの向上や多様化によりDrやトレーナーに限らず、チームの一員として理学療法士が関わる機会が増えている。また、レクリエーションスポーツの充実や様々な目的やレベルに応じて年代毎に取り組む人口の増加している。 そのため、スポーツ外傷に対する運動療法を実践すると同時に、予防についての知識について学ぶ。				
学習到達目標	1. 動作を行う前段階である姿勢や身体重心を捉え、動作中に加わる関節へのモーメントやメカニカルストレスの把握を目指す。 2. スポーツ外傷に関する運動療法の知識・技術を習得し、実践できる。				
授業内容	回	内 容	回	内 容	
	1	【スポーツ医学に対する概要】 スポーツ医学の歴史、医療界におけるスポーツ医学の必要性を把握する	6	【膝前十字靱帯損傷の運動療法】 サッカーによる損傷など	
	2	【単関節筋・二関節筋、姿勢の捉え方】 単関節筋と二関節筋の作用、身体重心・姿勢の捉え方を理解する	7	【膝靱帯損傷の運動療法】 バスケットボールによる損傷など	
	3	【メカニカルストレス、関節モーメント】 評価を行う上で必要となるメカニカルストレス関節モーメントの捉え方を理解する	8	【半月板損傷の運動療法】 ジャンプスポーツ全般による損傷など	
	4	【投球障害肩・肘の運動療法】 野球肩、野球肘など	9	【足関節捻挫の運動療法】 ランニングによる損傷など	
	5	【肉離れの運動療法】 ハムストリングス損傷など	10	【総括】 スポーツ動作の理学療法の着目点	
授業方法	講義と実習を併せて実施する。				
成績評価の方法	課題(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。				
履修上の留意点	能動的な態度でのぞむこと 動きやすい服装での参加が望ましい。				
教科書等	資料配付予定				
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック 奈良勲『標準理学療法学 専門分野 運動療法学各論 第3版』医学書院				
関連科目	機能解剖学Ⅰ・Ⅱ(1年)、解剖学(1年)、生理学(1年)、運動学(1年)				
最近の国試出題傾向	スポーツ外傷に関する問題が毎年出題されている。 特に前十字靱帯損傷の運動療法は頻出。				

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	物理療法学			単位数	2	時間数	33
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	原田 憲二 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 物理療法は、法律が指定するように理学療法士の担う重要な領域である。 2. 本科目の目的は、物理療法に関する知識を機器別、疾患別に理解することである。			
学習到達目標	1. 物理療法の役割を理解する。 2. 物理療法機器の特長を理解する。 3. 物理的刺激が生体に及ぼす影響の仕組みを理解する。 4. 物理療法の適応、禁忌を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【熱物理学】 ・温熱、寒冷の物理学など	7	【光線療法】 ・赤外線、紫外線療法など
	2	【温熱療法】 ・ホットパック、パラフィンなど	8	【水治療法】 ・ハバードタンクなど
	3	【高周波療法】 ・極超短波療法など	9	【牽引療法】 ・頸椎、腰椎牽引など
	4	【超音波療法】 ・超音波療法など	10	【バイオフィードバック療法】 ・筋電図バイオフィードバック療法など
	5	【寒冷療法】 ・アイスバックなど	11	【総括】
	6	【電気刺激療法】 ・TENSなど	12	
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	課題(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	参考図書に目を通しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック 奈良勲『標準理学療法学 物理療法学 第4版』医学書院			
関連科目	解剖学(1年)、生理学(1年)、運動学(1年)など その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(電気刺激療法・極超短波・水治療法など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	物理療法学実習			単位数	1	時間数	33
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	前期	授業形態	実習
担当講師	原田 憲二 谷出 敦子 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 物理療法学で学んだ知識を活かし、実際に物理療法機器を施行、体験し使用方法を学ぶ。 2. 各々の物理療法の効果、目的、適応、禁忌を再確認するとともにレポートにまとめることで検討を加える。			
学習到達目標	1. 物理療法機器を臨床現場において安全に施行できるようにする。 2. 物理療法学で学んだ、各種機器の目的、適応、禁忌を再確認する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【概論】 ・物理療法機器の説明など	7	【光線療法】 ・赤外線
	2	【温熱療法】 ・パラフィン	8	【電気療法・牽引療法等】 ・低周波、頸椎牽引、腰椎牽引、ティルトテーブル
	3	【温熱療法】 ・ホットパック	9	【水治療法】 ・部分浴、全身浴、交代浴
	4	【温熱療法】 ・超音波療法	10	【症例検討1】 ・物理療法を用いた症例検討
	5	【温熱療法】 ・超短波療法	11	【症例検討2】 ・物理療法を用いた症例検討、総括
	6	【寒冷療法】 ・寒冷療法	12	
授業方法	各機器を用いた実習を行う。			
成績評価の方法	課題レポート(50%)、実技試験(50%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	動きやすい服装での参加すること。 参考図書に目を通しておくことが望ましい。			
教科書等	物理療法学の講義資料			
参考図書等	奈良勲『標準理学療法学 物理療法学 第2版』医学書院 基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	物理療法学(2年)など その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(電気刺激療法・極超短波・水治療法など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	義肢装具学 I			単位数	1	時間数	36
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	前期	授業形態	実習
担当講師	小野 晋 植竹 駿一			○理学療法士の実務経験に基づく講義			

授業の概要	1. 近年における高齢化や内部障害の増加により、装具の使用率は増加してきている。 また、装具の概念も固定や安定性から動的な使用へと変化している。 2. 本科目では、装具の種類・各部の名称・装具の力学・各疾患に対する装具などについて学ぶ。			
学習到達目標	1. 装具とは何か、また役割を理解する。 2. 装具の種類・各部の名称及び役割を理解する。 3. 装具の適合方法を理解する。 4. 各疾患に使用される装具について理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【概論】 ・装具の歴史、種類、装具とは何かなど	7	【下肢装具】 ・名称、種類、役割など
	2	【靴型装具】 ・靴型装具の種類、補正など	8	【体幹装具】 ・名称、種類、役割など
	3	【装具と生体力学】 ・装具と生体力学、靴型装具の補正など	9	【体幹装具】 ・名称、種類、役割など
	4	【装具と運動学】 ・装具歩行と運動学など	10	【疾患別装具】 ・各疾患に対する装具の役割など
	5	【上肢装具】 ・上肢装具の種類、役割など	11	【疾患別装具】 ・各疾患に対する装具の役割など
	6	【装具と保険制度】 ・装具処方と保険制度など	12	【疾患別装具】 ・各疾患に対する装具の役割など
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(80%)、実技試験(20%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	動きやすい服装での参加が望ましい。			
教科書等	細田 多穂 『義肢装具学テキスト』 南江堂			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック 装具学 装具治療マニュアル			
関連科目	解剖学(1年)、検査測定学(1年)、日常生活活動学(2年)、運動学(1～2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(体幹装具・二分脊椎の装具・片麻痺の装具など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	義肢装具学Ⅱ			単位数	2	時間数	36
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	小野 晋 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 近年の義肢装具学分野は、人間工学や材料工学の発展に伴い著しく進歩している。 2. 本科目では、切断術における骨筋神経などの処置方法、術後の断端管理また義肢について学ぶ。			
学習到達目標	1. 切断術における骨・筋・神経・血管の処理について理解する。 2. 義肢の種類・各部のパーツについて理解する。 3. 義肢のベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメントについて理解する。 4. 切断術前後の評価、切断術後の理学療法、保険制度について理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【義肢の歴史】 ・義肢の歴史、種類など	7	【股義足】 ・ベンチアライメント、スタティックアライメントなど
	2	【切断と離断】 ・切断時の各種の処置など	8	【股義足】 ・ダイナミックアライメントなど
	3	【術後管理】 ・術後の対応、義足のパーツなど	9	【異常歩行】 ・大腿義足の異常歩行など
	4	【切断前後の評価】 ・断端の評価、大腿義足のベンチアライメントなど	10	【理学療法】 ・最近のソケット、義足でのADLなど
	5	【下腿義足】 ・ベンチアライメント、スタティックアライメントなど	11	【保険制度】 ・各種保険など
	6	【下腿義足】 ・ダイナミックアライメントなど	12	【総括】
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	動きやすい服装での参加が望ましい。			
教科書等	細田多穂『義肢装具学テキスト 第2版』 南江堂			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック 切断と義肢 Q&Aフローチャートによる下肢切断の理学療法			
関連科目	解剖学(1年)、検査測定学(1年)、日常生活活動学(2年)、運動学(1～2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(断端長測定・熱傷の装具・ソケットの選択など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	日常生活活動学講義			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	山際 清貴 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 人と向かい合うことを基本としている理学療法において、日常生活活動(ADL)は運動療法とともに大きな領域を占めている。 2. 本科目の目的は、理学療法におけるADLの位置づけ、ADLの運動学的分析、疾患別のADLなどの基礎知識を、講義形式にて習得することである。			
学習到達目標	1. ADL概念の発展を理解する 2. ADL評価の位置づけおよび役割について理解する 3. 自助具の役割を理解する			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【ADLの概念と理解】 ・ADLの歴史的展開など	7	
	2	【ADLとQOL】 ・障害分類の動向とADLなど	8	
	3	【ADLと運動学】 ・基本動作の観察など	9	
	4	【疾患別ADL】 ・片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺など	10	
	5	【疾患別ADL】 ・関節リウマチ、下肢切断、難病など	11	
	6	【総括】	12	
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	教科書を精読しておくことが望ましい。			
教科書等	奈良勲『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第4版』医学書院			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	リハビリテーション概論(1年)、検査測定学Ⅰ～Ⅴ(1、2年)、生活環境学(2年)、リハ機器(2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(FIM・Barthel Index・脳卒中患者のADLなど)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	日常生活活動学実習			単位数	1	時間数	36
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	前期	授業形態	実習
担当講師	澤田 譲治 高江洲 潤 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 人と向かい合うことを基本としている理学療法において、日常生活活動(ADL)は運動療法とともに大きな領域を占めている。 2. 本科目の目的は、日常生活活動(講義)で習得した知識を活用し、実際のADL評価や指導などを体験することで、技術の正確性や迅速性を習得することである。			
学習到達目標	1. 各疾患の障害構造とADLについて理解する 2. 疾患別ADL指導のポイントを理解する 3. ADL評価や指導を習得する			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【総論】 ・2年次の復習など	7	【歩行補助具】 ・歩行補助具の種類、適応など
	2	【ADL評価】 ・ADLの評価表など	8	【介助方法】 ・動作介助など
	3	【健常人の活動分析①】 ・健常人の動きなど	9	【福祉用具】 ・福祉用具の種類、適応など
	4	【健常人の活動分析②】 ・グループ発表	10	【疾患別ADL】 ・障害像に合わせたADLなど
	5	【車いす】 ・車椅子の構造、適応など	11	【疾患別ADL】 ・障害像に合わせたADLなど
	6	【車いす】 ・介助方法など	12	【総括】 ・総括など
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(50%)、実技試験(50%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	動きやすい服装での参加が望ましい。			
教科書等	奈良勲『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第4版』医学書院			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	リハビリテーション概論(1年)、検査測定学(1年)、日常生活活動(2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に10問程度出題(脊髄損傷のADL・片麻痺のADL・評価法・車いすの寸法など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	疾患別理学療法 I			単位数	1	時間数	33
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	後期	授業形態	実習
担当講師	川島 敏生 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、整形外科の分野に関する知識と理学療法の実践を習得する。			
学習到達目標	1. 整形外科に関する知識を理解する 2. 整形外科疾患の病態を理解する 3. 整形外科疾患に対する理学療法を理解する			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【脊椎疾患の理学療法①】 ・頸部、胸部の障害など	7	【熱傷の理学療法】 ・評価とADL指導など
	2	【脊椎疾患の理学療法②】 ・腰部の障害など	8	【骨折の理学療法①】 ・上肢
	3	【上肢の障害と理学療法①】 ・肩関節の障害など	9	【骨折の理学療法②】 ・下肢、体幹
	4	【上肢の障害と理学療法②】 ・肘関節、手関節の障害など	10	【画像診断】 ・X線、CT、MRIなど
	5	【靭帯損傷の理学療法】 ・ACL損傷など	11	【スポーツ外傷の理学療法】 ・スポーツフィールドにおける実践
	6	【関節リウマチの理学療法】 ・物理療法とADL指導	12	
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52 回国家試験に10問程度出題(靭帯損傷・小児の骨折・スポーツ外傷・理学療法・画像診断など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	疾患別理学療法Ⅱ			単位数	1	時間数	33
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	後期	授業形態	実習
担当講師	菊本 東陽 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、神経筋疾患などの難病に関する基礎的な知識を学ぶと共に、 難病の理学療法に必要な知識を習得する。			
学習到達目標	1. 難病の基礎知識を理解する 2. 難病の病態を理解する 3. 難病に対する理学療法の基礎的な技術を理解する			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【筋萎縮性側索硬化症など】	7	【筋ジストロフィー症など】
	2	【パーキンソン病など】	8	【皮膚筋炎など】
	3	【脊髄小脳変性症など】	9	【もやもや病など】
	4	【多発性硬化症など】	10・11	【総括】
	5	【ギランバレー症候群など】		
	6	【重症筋無力症など】		
授業方法	講義形式			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック 病気がみえる⑦脳・神経			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に10問程度出題(筋萎縮性側索硬化症・パーキンソン病・多発性硬化症など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	疾患別理学療法Ⅲa			単位数	1	時間数	33
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	前期	授業形態	実習
担当講師	山際 清貴 植竹 駿一			○理学療法士の実務経験に基づく講義			

授業の概要	1. 本科目では、脳卒中などの中枢神経疾患に関する基礎的な知識を学ぶと共に、中枢神経疾患の急性期理学療法に必要な知識を習得する。			
学習到達目標	1. 中枢神経疾患の基礎知識を理解する。 2. 中枢神経疾患の病態を理解する。 3. 中枢神経疾患に対する理学療法の基礎的な技術を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【中枢神経系の理解】 ・脳の機能、役割など	7	【歩行のアプローチ】
	2	【ICUでの理学療法】 ・ポジショニングなど	8	【ハンドリングの実際】 ・筋緊張が強い場合など
	3	【背臥位のアプローチ】	9	【ハンドリングの実際】 ・筋緊張が低い場合など
	4	【側臥位のアプローチ】	10	【運動療法の実際】
	5	【座位のアプローチ】	11	【総括】
	6	【立位のアプローチ】	12	
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	中枢神経疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック ステップス トゥ フォロー			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に10問程度出題(急性期のリスク管理・運動療法など)			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	疾患別理学療法Ⅲb			単位数	1	時間数	36
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	後期	授業形態	実習
担当講師	澤田 譲治 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、脳卒中などの中枢神経疾患に関する基礎的な知識を学ぶと共に、中枢神経疾患の回復期理学療法に必要な知識を習得する。			
学習到達目標	1. 中枢神経疾患の基礎知識を理解する。 2. 中枢神経疾患の病態を理解する。 3. 中枢神経疾患に対する理学療法の基礎的な技術を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【機能的歩行の再教育】 ・歩行の促進など	7	【床上動作】 ・片膝立ちでの治療活動など
	2	【機能的歩行の再教育】 ・連合反応の抑制など	8	【肩関節の痛み】 ・肩手症候群など
	3	【機能的歩行の再教育】 ・階段昇降など	9	【体軸のずれ】 ・肩手症候群など
	4	【日常生活活動】 ・更衣など	10	【趣味活動】 ・スポーツ活動など
	5	【日常生活活動】 ・食事など	11	【実技演習】
	6	【床上動作】 ・四つ這いでの治療活動など	12	【総括】
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(50%)、実技試験(50%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	中枢神経疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	疾患別理学療法Ⅲa(3年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に15問程度出題(片麻痺患者の歩行・ADL・運動療法・リスク管理・装具など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	疾患別理学療法Ⅳ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	楠本 泰士 網本 さつき 阿部 広和 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 小児の正常発達、異常発達を理解し、脳性麻痺児や先天奇形の理学療法に必要な基礎的な知識を習得する。			
学習到達目標	1. 小児の正常発達を理解する。 2. 小児の異常発達を理解する。 3. 脳性麻痺の病態を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【発達】 ・正常発達など	7	
	2	【脳性麻痺】 ・脳性麻痺の理学療法など	8	
	3	【筋ジストロフィー】 ・筋ジストロフィーの理学療法など	9	
	4	【ダウン症候群】 ・ダウン症候群の理学療法など	10	
	5	【二分脊椎】 ・二分脊椎の理学療法など	11	
	6	【総括】	12	
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	小児疾患の運動療法に関する問題は頻出。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	疾患別理学療法 V			単位数	2	時間数	36
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	宮川 哲夫 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、呼吸機能に関する基礎的な知識を学ぶと共に、呼吸理学療法を実施するために必要な技術を習得する。			
学習到達目標	1. 呼吸機能の基礎知識を理解する。 2. 呼吸不全の病態を理解する。 3. 呼吸理学療法の基礎的な技術を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【呼吸のしくみ】 ・内呼吸、外呼吸など	7	【臨床検査所見】 ・フローボリューム曲線など
	2	【呼吸器系の構造】 ・気道、肺の解剖など	8	【COPD】 ・COPDの呼吸理学療法など
	3	【呼吸の運動学】 ・胸郭の運動など	9	【神経筋疾患】 ・ALSの呼吸理学療法など
	4	【呼吸の生理学】 ・換気、気道抵抗など	10	【術後の呼吸理学療法】 ・ICUにおける呼吸理学療法など
	5	【呼吸不全】 ・低酸素血症など	11	【吸引】 ・吸引の実技など
	6	【呼吸器疾患患者の評価】 ・呼吸パターンなど	12	【総括】
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	呼吸理学療法に関する問題は頻出。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	疾患別理学療法Ⅵ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	谷出 敦子 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、理学療法の対象となる疾患について包括的に概観する。			
学習到達目標	1. 各病態の特徴を理解する。 2. 各病態に対する理学療法を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【整形外科疾患】 ・靱帯損傷など	7	
	2	【中枢性疾患】 ・パーキンソン病など	8	
	3	【呼吸器系疾患】 ・COPDなど	9	
	4	【循環器系疾患】 ・心不全など	10	
	5	【難病】 ・筋萎縮性側索硬化症など	11	
	6	【内科系疾患】 ・糖尿病など	12	
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に10問出題(上記疾患の病態・上記疾患の理学療法など)			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	疾患別理学療法Ⅶ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	清川 一樹 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、高齢者に特有な疾患の原因の解明と診断、予防、治療などを学び、高齢者の理学療法に必要な知識を習得する。			
学習到達目標	1. 高齢者の特徴を理解する。 2. 高齢者の病態を理解する。 3. 高齢者に対する理学療法を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【老化の起序】 ・生理的老化と病的老化など	7	
	2	【高齢者に特有な症候】 ・せん妄など	8	
	3	【高齢者に特有な症候】 ・転倒、骨折など	9	
	4	【高齢者に特有な症候】 ・褥創など	10	
	5	【高齢者に特有な症候】 ・浮腫など	11	
	6	【高齢者とリハビリテーション】 ・中枢性疾患、整形疾患など	12	
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	高齢者の症例問題は頻出。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	疾患別理学療法Ⅷ			単位数	1	時間数	36
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	通年	授業形態	実習
担当講師	高柳 清美 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、脊髄損傷の分野に関する知識と理学療法の実習を習得する。			
学習到達目標	1. 脊髄損傷に関する知識を理解する。 2. 脊髄損傷の病態を理解する。 3. 脊髄損傷の対する理学療法を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【脊髄損傷の病態】 ・総論など	7	【脊髄損傷の理学療法】 ・運動療法各論
	2	【脊髄損傷の病態】 ・合併症、随伴症など	8	【脊髄損傷の理学療法】 ・運動療法各論
	3	【脊髄損傷の理学療法】 ・評価について	9	【脊髄損傷の理学療法】 ・運動療法各論
	4	【脊髄損傷の理学療法】 ・運動療法総論	10	【脊髄損傷の最新の知見】 ・神経再生など
	5	【脊髄損傷の理学療法】 ・運動療法各論	11	【脊髄損傷の社会生活】 ・制度と法律など
	6	【脊髄損傷の理学療法】 ・運動療法各論	12	【総括】
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	脊髄損傷の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(脊髄損傷のADL・脊髄損傷の運動療法など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	疾患別理学療法区			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	多米 一矢 松田 俊彦 石井 斎			○理学療法士の実務経験に基づく講義			

授業の概要	1. 本科目では、外来理学療法を担当する際に必要となる機能解剖学を中心とした知識を学び、同時に患者の機能改善に貢献し得る技術を習得する。			
学習到達目標	1. 機能解剖学を理解する。 2. 外来理学療法のあり方を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【変形性関節症】 ・変形性膝関節症など	7	
	2	【変形性脊椎症】 ・変形性腰椎症など	8	
	3	【肩関節周囲炎】 ・肩関節周囲炎の評価と治療など	9	
	4	【骨粗鬆症】 ・骨粗鬆症の治療など	10	
	5	【運動器不安定症】 ・転倒対策など	11	
	6	【総括】	12	
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	整形疾患の理学療法に関する問題は頻出。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	疾患別理学療法 X			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	高江洲 潤 谷出 敦子 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	臨床実習で必要となるデイリーノート、症例レポート、レジメの書き方について学ぶ。 臨床実習に向けてOSCI、CCSの考え方を学び、実習前で円滑に行動できるように理解を深める。			
学習到達目標	1. パソコンの使い方を習得する(Word・Excel・Power Point)。 2. デイリーノート、症例レポート、レジメの役割を理解する。 3. 文献の引用方法を習得する。 4. CCSの考え方、実施方法を理解する。 5. OSCEの考え方、方法を学び、実際に取り組める準備を行う。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【デイリーノート】 デイリーノートの役割を理解する。	7	
	2	【症例レポート】 症例レポートの役割を理解する。	8	
	3	【症例レポート】 症例レポートをパソコンで作成する。	9	
	4	【CCSについて】 CCSの考え方を理解する。	10	
	5	【OSCEについて】 OSCEの展開について理解する。	11	
	6	【OSCEについて】 OSCEのデモンストレーション	12	
授業方法	スライド、配布資料を用いた授業。			
成績評価の方法	課題(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	パソコンを持参することが望ましい。 また、個人情報が流出しないようセキュリティ対策を厳重に行うこと。			
教科書等	配布資料。			
参考図書等	特になし。			
関連科目	臨床実習(4年)			
最近の国試出題傾向	出題されることはないが、臨床実習では非常に重要な作業となる。 十分な理解と実践能力が必要となる。			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	疾患別理学療法総括Ⅰ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	山際 清貴 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、各疾患の知識と理学療法の実際を統合する能力を習得する。			
学習到達目標	1. 整形外科に関する知識を理解する。 2. 整形外科疾患の病態を理解する。 3. 整形外科疾患に対する理学療法を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【肩関節の疾患】 ・肩関節周囲炎など	7	
	2	【肘関節の疾患】 ・脱臼、炎症など	8	
	3	【手関節の疾患】 ・骨折など	9	
	4	【股関節の疾患】 ・変形性股関節症など	10	
	5	【膝関節の疾患】 ・変形性膝関節症など	11	
	6	【足関節の疾患】 ・足関節捻挫など	12	
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	課題(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に5問程度出題(小児の骨折・変形性膝関節症・画像の読映など)			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	疾患別理学療法総括Ⅱ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	佐野 純平 原 隆之 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、各疾患の知識と理学療法の実際を統合する能力を習得する。			
学習到達目標	1. 中枢神経疾患に関する知識を理解する。 2. 中枢神経疾患の病態を理解する。 3. 中枢神経疾患の対する理学療法を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【脳出血】	7	
	2	【脳梗塞】	8	
	3	【くも膜下出血】	9	
	4	【脳腫瘍】	10	
	5	【水頭症】	11	
	6	【変性疾患】	12	
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	課題(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題(脳梗塞の理学療法・リスク管理など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	総括			単位数	3	時間数	48
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	原田 憲二 谷出 敦子 高江洲 潤 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、各疾患の知識と理学療法の実際を統合する能力を習得する。			
学習到達目標	1. 各疾患に関する知識を理解する。 2. 各疾患の病態を理解する。 3. 各疾患の対する理学療法を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1～2	【難病】 ・パーキンソン病など	13～14	【スポーツ障害】 ・靱帯損傷など
	3～4	【呼吸器疾患】 ・COPDなど	15～16	【その他】
	5～6	【循環器疾患】 ・心不全など		
	7～8	【内部障害】 ・糖尿病など		
	9～10	【小児疾患】 ・脳性麻痺など		
	11～12	【老年症候群】 ・転倒など		
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	課題(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に10問出題(脳性麻痺のポジショニング・靱帯損傷の運動療法・腎不全の理学療法など)			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	生活環境学			単位数	2	時間数	33
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	山際 清貴 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 人の生活行動を支援するうえで必要不可欠な社会保障制度、バリアフリーの概念と実際、住宅改造の要点、生活を支える福祉機器などの知識は、理学療法士を目指す限り必須の条件である 2. 本科目の目的は、上記に関する知識を講義形式にて習得することである。			
学習到達目標	1. 生活環境学は学際的な領域であることを理解する。 2. 生活環境とADL、QOLは緊密な関係であることを理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【生活環境学の概念】 ・生活環境と障害など	7	【地域環境と公共交通】 ・地域環境のバリアフリー化
	2	【生活環境の評価と改善計画】 ・生活環境改善計画の実際など	8	【フィールドワークの実践】 ・退院前評価、地域環境調査など
	3	【生活環境と法的諸制度】 ・社会保険制度など	9	【総括】
	4	【生活環境としての住宅・住宅改修】 ・障害者をとりまく生活環境の整備など	10	【総括2】
	5	【高齢者の在宅生活サービス】 ・高齢者の在宅支援サービスなど	11	【国家試験対策】
	6	【生活を支える福祉・リハ関連機器】 ・日常生活用具など	12	
授業方法	主に講義形式だが、実技を行う日もある。			
成績評価の方法	課題(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	参考図書に目を通しておくことが望ましい。			
教科書等	奈良勲 『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第4版』 医学書院			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック 生活環境論(理学療法テキスト)			
関連科目	リハ概論(1年)、PT概論(1年)、日常生活活動学(2年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	環境設定や家屋改修に関する問題は頻出。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	リハビリテーション関連機器			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	原 隆之 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 高齢者や障害者が自立した日常生活を送るためや、介護をしている方の負担を軽減するために、人的パワーと並んでリハビリテーション機器にも大きな役割が期待されている。 2. 本科目の目的は、リハビリテーション機器を正しく選択し、有効活用するための基礎的な知識を習得することである。			
学習到達目標	1. リハビリテーション機器の名称を理解する。 2. リハビリテーション機器の役割を理解する。 3. 状態にあったリハビリテーション機器を選択できる。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【総論】 ・リハビリテーション関連機器とは	7	
	2	【総論2】 ・支給方法など	8	
	3	【課外授業】 ・外部研修への参加	9	
	4	【課外授業】 ・外部研修への参加	10	
	5	【グループ発表】 ・外部研修での成果報告	11	
	6	【グループ発表】 ・外部研修での成果報告	12	
授業方法	課題・発表(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
成績評価の方法	出席率、授業態度、レポート課題、グループ発表などを加味して評価する。			
履修上の留意点	参考図書に目を通しておくことが望ましい。			
教科書等	奈良勲 『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第4版』 医学書院			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年)、日常生活活動学(2年)、日常生活活動学実習(3年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	歩行補助具に関する問題が出題			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	隣接領域概論			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	松本 容子 中島 明子 原田 登子 小野 賢一 ○臨床現場での実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. リハビリテーションは、理学療法士のみで成り立つものではなく、隣接領域の他職種との連携が必要不可欠である。 2. 本科目の目的は、隣接領域の他職種の役割、業務内容を理解し、適切なリハビリテーションを提供できる能力を習得することである。			
学習到達目標	1. 看護師の役割、業務内容を理解する。 2. 言語聴覚士の役割、業務内容を理解する。 3. 作業療法士の役割、業務内容を理解する。 4. ソーシャルワーカーの役割、業務内容を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【看護師の役割】 ・理学療法士との連携など	7	
	2	【看護師の業務】 ・看護の実際など	8	
	3	【言語聴覚士の役割】 ・理学療法士との連携など	9	
	4	【作業療法士の役割】 ・理学療法士との連携など	10	
	5	【作業療法士の業務】 ・作業療法の実際など	11	
	6	【ソーシャルワーカーの業務】	12	
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	参考図書に目を通しておくことが望ましい。			
教科書等	奈良勲『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第4版』医学書院			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	チーム医療に関する問題は頻出。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	地域リハビリテーション学			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	後期	授業形態	講義
担当講師	原田 憲二 ○臨床現場での実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. リハビリテーションは必ずしも病院で行われるものではなく、退院後の生活支援などは在宅(地域)で行われることが一般的である。 2. 本科目の目的は、講義形式で地域リハビリテーションの重要性を理解し、また実践できる能力を習得することである。			
学習到達目標	1. 地域リハビリテーションの役割を理解する。 2. 地域リハビリテーションの実際を理解する。 3. 地域リハビリテーションにおける理学療法士のあり方について理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【地域リハの歴史】 ・ネットワーク化の動きなど	7	
	2	【地域リハの考え方】 ・活動指針など	8	
	3	【地域リハの諸サービス】 ・入所サービスなど	9	
	4	【介護保険とリハビリテーション】 ・介護保険の仕組みなど	10	
	5	【地域リハのシステム】 ・支援体制の事例など	11	
	6	【総括】	12	
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	参考図書に目を通しておくことが望ましい。			
教科書等	奈良勲 『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第4版』 医学書院			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	地域リハに関する問題は頻出。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	学内臨床セミナー			単位数	1	時間数	30
科目区分	専門分野	対象年次	2	学期	後期	授業形態	実習
担当講師	山際 清貴 川島 敏生						

授業の概要	1. 本科目の目的は、障害をお持ちの方との触れ合いの中で、理学療法士として必要な態度や知識を習得し、理学療法士となる心構えを培う。			
学習到達目標	1. 障害の実態を理解する。 2. 理学療法士として必要な態度や知識を習得する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【オリエンテーション】		
	2	【発表テーマの選定】		
	3～5	【評価準備】		
	6・7	【検査・測定の実施】		
	8～9	【発表準備】		
	10	【発表】		
授業方法	学生間でのグループワークを中心に実施する。			
成績評価の方法	発表内容(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	理学療法の全体像について理解しておくことが望ましい。 検査測定の目的と方法の再確認をしておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	資料配布			
関連科目	リハビリテーション概論(1年)、理学療法概論(1年)、検査測定学Ⅰ～Ⅴ(1, 2年) その他多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	問診や接遇に関する問題は近年頻出。			

理学療法学科Ⅰ部 シラバス

科目名	介護老人保健施設実習			単位数	1	時間数	45
科目区分	専門分野	対象年次	3	学期	後期	授業形態	実習
担当講師	各施設実習担当者 佐野 純平 原 隆之 ○臨床現場での実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目の目的は、実際の老人保健施設に赴き、老人保健施設における理学療法士の役割を習得する。				
学習到達目標	1. 老人保健施設における理学療法士の役割を理解する。				
授業内容	回	内容	回	内容	
	実習開始前	学内実習オリエンテーション			
	外部実習施設	朝のカンファレンスの見学 対象者の迎え方(1日の時間の過ごし方) 情報収集の方法(作業療法士・言語聴覚士・看護師・介護職員など) 理学療法(評価・物理療法を含む)の見学 他部門との協働方法を観察学習 問題が生じた場合の対応方法を学ぶ その他			
	実習終了後	実習終了後オリエンテーション			
授業方法	実習先に赴き指導を受ける。				
成績評価の方法	実習施設での実習到達度の評価(20%)、学内発表などを総合して点数化(80%)し評価を行う。				
履修上の留意点	理学療法の全体像について理解しておくことが望ましい。				
教科書等	指定のものはなし				
参考図書等	指定のものはなし				
関連科目	理学療法評価法、運動療法学等、幅広い科目に関連する。				
最近の国試出題傾向	近年、患者様との面接手法について出題される。 高齢者、介護保険に関する問題も出題される。				

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	臨床実習Ⅲ			単位数	9	時間数	405
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	前期	授業形態	実習
担当講師	理学療法学科専任教員／実習施設指導者 ○理学療法士の実務経験に基づく指導						

授業の概要	1. 本科目の目的は、実際に病院に赴き、理学療法士の役割を習得することである。 特に臨床実習Ⅲでは、評価から治療プログラム設定までを主目標とする。			
学習到達目標	1. 理学療法士としての基本的な態度を習得し、専門職としての資質向上を図る。 2. 症例に対して一連の評価の流れを学び、指導・監督のもとで遂行できる。 3. 対象者に関する問題点抽出を、評価結果に基づいて実施することができる。 4. 対象者に応じた目標(短期ゴール・長期ゴール)設定ができる。 5. 対象者の現状に即した理学療法治療計画を作成できる。			
授業内容	回	内容	回	内容
	実習開始前	学内実習オリエンテーション 実習指導者会議 客観的臨床能力試験(OSCE)		
	外部実習施設	実習指導者の指導・監督のもと、対象者の検査・測定、評価、目標設定、治療計画立案、理学療法の実施までの一連の過程を経験する。 上記の項目を見学・模倣・実践と段階的に進行する。 日々の行動・考えを観察記録シート・症例記録シートに記録し、指導者との検討および内省を行うことで学習を進める。		
	実習終了後	客観的臨床能力試験(OSCE) 実習終了後オリエンテーション		
授業方法	実習地に赴き指導を受ける。			
成績評価の方法	実習施設での実習到達度の評価(20%)、学内発表などを総合して点数化(80%)し評価を行う。			
履修上の留意点	理学療法の全体像について理解しておくことが望ましい。 学内授業の総復習をしておくことが望ましい。			
教科書等	指定のものはなし			
参考図書等	指定のものはなし			
関連科目	理学療法評価法、運動療法学等、幅広い科目に関連する。			
最近の国試出題傾向	近年、患者様との面接手法について出題される。			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	臨床実習Ⅳ			単位数	9	時間数	405
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	後期	授業形態	実習
担当講師	理学療法学科専任教員／実習施設指導者 ○理学療法士の実務経験に基づく指導						

授業の概要	1. 本科目の目的は、実際に病院に赴き、理学療法士の役割を習得することである。 特に臨床実習Ⅲでは、治療の実施から再評価までを主目標とする。				
学習到達目標	1. 理学療法士としての基本的な態度を習得し、専門職としての資質向上を図る。 2. 症例に対して一連の評価の流れを学び、指導・監督のもとで遂行できる。 3. 対象者に関する問題点抽出を、評価結果に基づいて実施することができる。 4. 対象者に応じた目標(短期ゴール・長期ゴール)設定ができる。 5. 対象者の現状に即した理学療法治療計画を作成できる。 6. 立案した理学療法治療計画が実践できる。 7. 治療経過を適宜観察・記録し、明瞭簡潔に報告する能力を向上させる。 8. 対象者の変化に応じて再評価を行い、治療計画を再構築する能力を養う。				
授業内容	回	内容		回	内容
	実習開始前	学内実習オリエンテーション 実習指導者会議 客観的臨床能力試験(OSOE)			
	外部実習施設	実習指導者の指導・監督のもと、対象者の検査・測定、評価、目標設定、治療計画立案、理学療法の実施までの一連の過程を経験する。 上記の項目を見学・模倣・実践と段階的に進行する。 日々の行動・考えを観察記録シート・症例記録シートに記録し、指導者との検討および内省を行うことで学習を進める。			
	実習終了後	客観的臨床能力試験(OSOE) 実習終了後オリエンテーション			
授業方法	実習地に赴き指導を受ける。				
成績評価の方法	実習施設での実習到達度の評価(20%)、学内発表などを総合して点数化(80%)し評価を行う。				
履修上の留意点	理学療法の全体像について理解しておくことが望ましい。 学内授業、臨床実習Ⅲの総復習をしておくことが望ましい。				
教科書等	指定のものはなし				
参考図書等	指定のものはなし				
関連科目	理学療法評価法、運動療法学等、幅広い科目に関連する。				
最近の国試出題傾向	近年、患者様との面接手法について出題される。				